



CONTENTS

新型コロナウイルス感染拡大防止策に伴う活動自粛のため、2頁の掲載となります。

- 1頁・新年を迎えてのご挨拶
- 2頁・日本医療機能評価機構による病院機能評価受審を終えて
- 2頁・奈良東病院グループ施設群において抗菌コートを実施しました

第129号 ふれあいの里

〒632-0001 天理市中之庄町470 TEL.0743-65-1771(代)

発行責任者：鉄村 信治

編集：ふれあいの里広報委員会

<https://www.fureai-net.com/>



医療法人健和会 理事長

鉄村 信治

新年を迎えてのご挨拶

～ コロナ禍で奈良東病院グループが担うこと ～

新年明けましておめでとうございます。

昨年より猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症ですが、残念ながら未だ収束の兆しがありません。例年であれば初詣に出かけたり、親戚の方々と久しぶりに顔を合わされ

たりといった大変華やかな元旦を迎えるはずが、本年はそういう訳にはいかなかった方も多いのではないのでしょうか。年明け早々のご挨拶にこのような暗い話で恐縮ですが、一方で治療法が少しずつ解ってきた事や、海外でワクチン接種が始まった事など、希望を持てるニュースもあります。何とか本年中には収束する事を期待しております。

さて、我々医療・介護事業者は感染症に対して一般企業以上に大変大きな注意を払っており、これまでの感染対策の取り組みをいくつか紹介させていただきます。まず抗原検査機器を導入し、新入院・入所者様に事前に検査を受けて頂く体制としました。また、スタッフにも広く活用いただいております。その他の取り組みとして、病院・施設の抗菌コーティング、サーモグラフィー設置、各種防護服備蓄、スタッフ間のテレビ会議導入や屋外発熱外来設置など多くの体制を整えました。なお、面会制限により家人様には大変ご不便、ご心配をお掛けし、誠に申し訳ありませんでした。地域の感染状況が改善すれば速やかに制限の解除を検討しますので、何卒ご理解頂きますようお願い申し上げます。

感染流行から1年近く経過しました。この間スタッフには大

変な御苦労をお掛けしましたが、皆様方のおかげでここまで乗り越えてきました。日々、緊張を強いられる中で懸命に業務に取り組んでいただいております。ご家族にも大変な御心配をお掛けしている事と思います。ご理解、ご協力に改めて感謝申し上げます。

この様に辛く大変な事ばかりですが、逆にこの様な試練から学んだ事や貴重な経験もあります。個々のスタッフや各施設での様々な感染対策は、コロナ後にも必ず役に立つでしょう。また、こういう有事には職員の一致団結が非常に大事であり、この点も大変有難い経験となりました。一例をご紹介しますが、万一グループ内施設で大規模感染が発生した場合を想定し、応援スタッフを任意で募集したところ、想像以上に多くの方が手挙げをしてくれました。本当に嬉しく、胸が熱くなりました。こういった協力体制は我々の貴重な組織風土であり、今回のこの新型コロナウイルス感染という未曾有の危機を通じて、今まで以上にグループの結束が強くなったと確信しております。

最後になりますが、まだまだ気を許せない日々が続いております。皆様方が無事この感染症を乗り越えられ、一日も早く平穏な日々が戻る事を祈念しております。何卒お身体にはご自愛下さい。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

令和3年 元日



健和会理念

私達は、医療がサービス業であることを認識し、以下の目標を掲げる。

- 1・患者さん中心の医療・看護・介護
- 2・地域社会への貢献
- 3・研究心と向上心を持つ
- 4・和を尊ぶ

健和会基本方針

- 1・私たちふれあいの里の職員はいつも患者さんの意思を尊重し権利を遵守して、患者さん中心の医療、看護、介護を実践します。患者さんのADL(日常生活動作)改善とQOL(生活の質)向上のため、積極的にリハビリテーションに取り組みます。
- 2・私たちは、他の医療機関や地域の人々と連携して地域社会に貢献し、社会に開かれた施設を目指します。
- 3・私たちは患者さんから学ぶという初心を忘れず、より良い医療、看護、介護を提供できるように常に研鑽し探究する精神を持ち続けます。
- 4・私たちは力を合わせてチーム医療の遂行のために努力します。



日本医療機能評価機構による病院機能評価受審を終えて

6月23日～24日の2日間に渡り、日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審いたしました。病院機能評価とは医療機関の資質向上のため、公益財団法人日本医療機能評価機構のサーベイヤー（調査員）の方が第三者として客観的・中立的・科学的な立場で病院機能を評価するもので、当院では平成17年に初めて受審、基準を達成している病院として認定され、以後、平成22年、平成27年、そして令和2年と5年ごとに受審し、今回4回目の認定となりました。

今回の受審にあたり、一昨年の7月から委員会を立ち上げ、準備を進めてまいりました。

評価内容にはそれぞれの病院の特性や機能に応じていくつかの種別があり、前回は「主として療養病床等により慢性期医療を担う病院」（慢性期病院）として受審しましたが、その後、地域包括ケア病床（本館3階病床）や回復期リハビリテーション病床（本館4階病床）等の時代に即した病床編成を行い、今回は「主として日常生活圏域等の比較的狭い地域において地域医療を支える中小規模病院」（一般病院1）として受審しました。今回で4回目の受審でしたが、この一般病院1としての受審は初の試みで、委員会立ち上げ当初から試行錯誤を繰り返しました。理念や体制、規定、手順書、マニュアルなど、構造的な側面の確認、さらにケアプロセス（入院から退院までの診療・看護を遂行していく過程）調査という診療録や看護記録等を用いて患者様の症例の経過に対する「関わり」を評価するものがあり、これは患者様に対して看護師や介護士、リハビリ職員等それぞれが「個」として対応するのではなく、それぞれの職種が連携し一つの「チーム」としてどのように取り組んでいるかという「関わり」を評価するものです。もちろん、様々な職種が連携して患者様の状態に応じて対応しているのですが、そのカンファレンスのあり方について

意見を出し合いました。

委員会を中心に準備を進めていく中で、日本医療機能評価機構が主催する講習会にも参加しました。そこでも病院という組織的な活動状況に加え、臨床の現場で展開される診療・ケア業務の流れなど活動状況にも重点を置いて審査するというものでした。講習の中で得た情報はどれも受審に向けて参考になるものばかりでした。

講習で得た情報を持ち帰り、委員会にて共有し、さらに協議し、準備を進めていきました。

受審日当日、書面審査から始まり、ケアプロセス調査へと移りました。事前に多職種で協議し、当日を迎えましたが、サーベイヤーの方からは様々な角度からの質問があり、新たな視点からその患者様の状態を確認することができました。

病院機能評価というのは、自院の現状をしっかりと見つめ直し、第三者の目で客観的に評価していただくことによって何が優れていて何が足りていないのかを確認する良い機会であると改めて感じました。今回、受審を終えて認定となりましたが、まだまだ改善できる点は多々あると思います。また5年後、病院機能評価を受審することになりますが、受審のための改善ではなく、患者様・家族様にとってより良い病院となるよう努力していきたいと思っています。

（奈良東病院 事務長 鳩山 賢次）



奈良東病院グループ施設群において抗菌コートを実施しました

奈良東病院グループでは、新型コロナウイルスやインフルエンザウイルス対策、そして院内感染・クラスター発生予防を目的として、11月初旬から12月初旬にかけて、病院を初め全ての施設において抗菌コートを実施しました。

昨今猛威を振っている新型コロナウイルスや様々な菌などとの接触感染を予防するもので、除菌・消臭効果もあり、入院患者様や各サービス利用者様、そしてお越しいただく全ての皆様に安心と安全をご提供することを目的としたものです。

具体的な実施箇所として、病院外来受付や待合フロア、エレベーター（ボタン含む）や手すり、トイレ、リハビリ機器、送迎バス、また各施設においては談話室や送迎車、自動ドア開閉ボタン等、ありとあらゆる箇所に実施いたしました。

現在、入院患者様や入居者様とのお面会も以前のように自由に行えない状況ですが、お越しいただく全ての皆様に安心と安全をご提供できるよう、奈良東病院グループ一丸となって感染対策に取り組んでまいります。

（医療法人健和会 理事長 鉄村 信治）



編集後記

新年明けましておめでとうございます。コロナ禍で迎える2021年、皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年は中国・武漢市に端を発した新型コロナウイルスから始まり、その後、第二波、第三波と波が押し寄せ、収束の兆しが見えぬまま幕を閉じました。毎年12月に発表される「新語・流行語大賞」の年間大賞に『3密』が選ばれたように、「密閉・密集・密接」を避けるよう呼びかけがなされました。そんな中、政府は経済活動活性化に向けて「Go To キャンペーン事業」を打ち出しましたが、その中の「Go To Travel キャンペーン」については新型コロナウイルス感染者が急激に増えたこともあり、12月28日から1月11日まで全国一斉一時停止となりました。改めて感染拡大防止と経済活動の両立の難しさを感じさせられました。

コロナ禍において我々一人一人にできることは、まずは感染症に対して自分自身で自己防衛をしっかり行うことではないでしょうか。自分自身が感染しないことによって家族や周囲の方々に感染させない、感染拡大防止に向けて一人一人ができることをできる限り行う、お互いがお互いを思いやる気持ちが大事ではないでしょうか。

皆様におかれましては、感染対策の基本である「手洗い」「うがい」「手指消毒」をしっかり行っていただき、体調管理に努めていただきますようお願いいたします。

（広報委員長 橋本 重之）

